

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年2月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2271300267
法人名	特定非営利活動法人 シンセア
事業所名	グループホーム たみの里 長泉
所在地 (電話番号)	〒411-0951 静岡県駿東郡長泉町桜塚2-10-10 TEL 055-980-6581 FAX 055-988-3740
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年11月12日

## 【情報提供票より】(平成19年10月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 14 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(平成19年 10月 15日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名	
要介護1	1 名	要介護2	8 名			
要介護3	7 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	83 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック、清水館病院、文ニューロクリニック、三島森田病院、瀬川歯科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>閑静な住宅街の中に明るく広々とした空間を持ち、近くには公園もあるなど環境のよいところに建てられたホームである。特定非営利活動法人シンセアが設立したグループホームに所属し、介護スタッフのサポートを受けながら、穏やかな生活環境を保ち、共同の生活から得られる、人と接する楽しさ、喜び、温かさを大切にすることを目指したホームである。職員のケアサービスにかける情熱と質の高さには定評がある。施設の責任者は交代したばかりで日は浅いが、グループホームの運営にかける思いも大いなるものがあり、その手腕に期待が持てる。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の要改善項目で職員によるケアサービスには改善の取り組みが見られたが、地域との交流・連携に課題が残されている。地域密着型サービスを目指すためには、運営推進会議を開催できるよう努力をされたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価で見出された課題について実行出来ることは改善の跡がみえるものの、まだ十分とは言えない。また、自己評価の取り組みにあっても、職員に自己評価票の用紙を渡し、課題を上げるよう促したのみにとどまり、意見を集約、検討するまでに至っていない。管理者が交代したばかりできついかも知れないが、的確な取り組みをお願いしたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の重要性をよく理解され、準備が整い次第、2ヶ月に1回以上開催されることを望む。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会はないが、家族等の面会時には意見・要望を聞きだし運営に反映している状況が、家族アンケートからも伺える。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>中学生の体験学習の生徒を受け入れ地域との連携を図るように努めているが、地域行事を通じての利用者と地域住民との交流は十分と言いがたく、地域住民の一員として、町内会・自治会等への加入も視野にいれ、地域との連携を深めることを望まれる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は企業グループ内のものをそのまま事業所の理念として掲げており、地域のなかでその人らしく生活することを支えるホーム独自のケアの具体的なイメージを持った理念となっていない。	○	地域密着型サービスとして何が大切かを考え、事業所の状況の変化によって現状にあった理念に作り変えられることが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の取り組みについては、毎朝の申し送りの際に取り組んできたことを話し合い、また、月1回開催のユニット会議においても理念の共有化を図るようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われたお祭りや敬老会への参加は、道路事情あるいは職員の融通がつかなかったことから、取りやめられた経緯があるが、中学生の体験学習は受け入れている。	○	自治会への加入を視野に入れて地域との交流やボランティアを積極的に受け入れる等、地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割りを担っていく努力が望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ立ち上げられていない。	○	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な会議であることを十分に認識され、利用者、家族等、地域住民(自治会役員、民生委員など)、地域包括支援センターや行政の職員等に積極的に参加を働きかけられることが望まれる。
	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口への書類等の提出に当っては、郵送やファックスをやめて出向くなど、市職員との接触の機会を出来るだけ多くするように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等に対し、毎月定期的に近況と金銭報告を行っているほか、年4回本部が作成の「たみの里たより」を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、家族等の面会時には意見・要望を聞き出し、運営に反映するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が激しく、利用者に与えるダメージが懸念される。	○	現在ベテラン職員の支えにより業務運営はされているが、家族アンケートでも人の入れ替わりが多いことを危惧する意見が寄せられており、職員の定着率を高める為の具体的な努力や工夫が求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員を派遣して研修内容の共有化が図られているが、内部研修は未実施となっている。	○	職員育成のため、段階に応じたホーム内における研修の実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	企業グループ内における管理者の交流は毎月2回あるが、近隣同業者との交流は行われていない。		市町村の協力を求めながら、職員を含めて近隣同業者との交流を積極的に手がけられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者がホームの環境に慣れるよう来訪を促したり、家庭を訪問するなどして利用者本人が負担とならないよう、安心して入居できる態勢を家族等と相談しながら行われている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と喜怒哀楽を分かち合うように心がけており、年長者である利用者からも生活のチエを授かったりして、身近に信頼しあえる関係が築かれている。</p>		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、家族の要望も取り入れながら介護計画を作成しているが、介護計画書の作成や更新、職員全体への周知方法など確認できなかった。</p>	○	<p>日々の介護、ケアは確実に行われているので、定期的に介護計画書が作成、見直しされ、全職員や家族にその内容が伝わる仕組み作りが望まれる。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のユニット会議にて利用者ごとに状況変化や、ケアの課題などが話し合われ、随時介護計画の見直しを行っているが、定期的な介護計画書の見直しには至っていない。</p>	○	<p>介護計画はホームにおける利用者の介護の基本となる重要なものであることから定期的あるいは随時の見直しをされ、経過がきちんと記録されるように整理することが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援や、外出、買い物などの支援を行っているが、ホームの持つ独自の機能を、十分に生かしているとはいえない。	○	ホームの持っている認知症対応の様々な機能を、利用者やその家族、地域の住民などへ提供できるホーム独自のサービス確立への取組みが望まれる。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。提携医による週3回の訪問診療や、月2回の訪問看護師による看護なども行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族の希望に基づく話し合いやホームとしての体制づくりなど、基本方針やマニュアル等は整備されていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、ホームとしての基本指針の確立や、入居契約時から本人、家族の希望を確認し同意書をいただくなど、全職員で終末期対応を共有する仕組み作りが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや対応は、年長者、目上の人として本人の尊厳を最も大事なことととらえ、一人ひとりの状況に合わせて行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が全体の一日のリズムを作り、入浴対応や食事から排泄まで利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者とは相談しながら決めるようにしている。また、調理、盛り付け、片付け等も利用者とともに、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の都合に合わせて対応している。一部の利用者には夜間の対応も行っており、入浴チェック表にて間が開かないような配慮も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を理解し、その方の得意なことや趣味を把握し、配膳、食器片付け、洗濯物干しや取り込み、掃除や趣味の歌や貼り絵、カレンダー作りなどの活躍の場を提供している。競艇の好きな利用者のために浜名湖まで行ったこともあるとのことであった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物や散髪等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しておりベランダへの出入りもオープンになっている。出て行く気配や外出の傾向を掴んでいて、制止せず見守ることを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て消火、避難訓練を定期的に行っているが、地域の人達との連携は十分とはいえない。	○	運営推進会議を通じて、防災訓練や災害時の夜間協力依頼を行うなど、地域の人達との輪をより大きくする活動に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調により食事の量を調整し、摂取状況を毎日チェック表に記録しているが、水分摂取量の記録や食事全体の栄養バランスやカロリー計算は行われていない。	○	定期的に栄養の専門家などから栄養バランス、カロリー摂取量の確認や、日々の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は畳の間にコタツがあったりして、ゆったりと落ち着いており、居間には利用者と職員で一緒に作った季節感のある飾りや折り紙、書などが飾られていた。手作りカレンダー、季節の花も飾られ、オープンキッチンでの食事の支度やにおいなども伝わり、心地良い生活感・季節感が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛用の筆筒や家具、洋服などが持ち込まれ、家族やホームでの写真、利用者が書いた絵などが飾られ、利用者が安心して暮らせる居室環境への工夫がなされている。		